

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	統合物質科学リーダー養成プログラム	申請大学名	東京大学
申請大学長名	濱田 純一		
プログラム責任者	北森 武彦		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none">・本プログラムの企画・運営および連携促進のための各種委員会等のマネジメント体制が整備され、当初計画は着実に実施されている。博士課程教育リーディングプログラムを統括する大学全体の運営組織は設けられていないが、副学長(プログラム責任者)が中心となり複数の研究科・専攻間の連携が図られている。・外国人を含む有識者から構成される外部アドバイザリー会議を実施し、その評価意見・助言をコースワークの内容や自発融合研究の改善のために取り入れる等、迅速かつ適切な対応が取られている。・パンフレット・ビデオメッセージによって本プログラムの趣旨・目的を明確化し、具体的な選抜基準を設けることにより、約 1.5 倍の倍率で高い意欲をもつ優秀な学生を採用している。物質科学における独創性と俯瞰力を備えた、アカデミア・産業界・官界で活躍するリーダーの養成が期待される。・学生が自主的に企画・運営するコロキウム・コース生自主キャンプは、物理・化学・材料科学・電子工学にわたる広い分野の研究を自らの言葉で説明し、相互に理解することにより、異分野を理解する力と広い視野を鍛錬する場になっている。また、自主キャンプの研究発表から、異なる分野に属する学生同士の発案による自発融合研究が生まれており、今後の発展が期待できる。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none">・統合物質科学俯瞰講義は、物質科学が関わる基礎から応用までの広いジャンルのテーマと科学倫理を含むオムニバス講義である。最先端の研究の成果やその背景となる知識に触れることは魅力的であるが、俯瞰する力を養うためには体系的に学ぶことも重要である。特に、科学史・科学哲学の体系的な理解を可能にする講義内容の工夫が望まれる。・コースワークにおいて、物理系コースと化学系コースの学生がそれぞれ履修する共通科目は各専攻の既存科目である。統合物質科学の共通基盤となる学力を養成するためには、それぞれのコースのバックグラウンドを考慮した本プログラムの講義科目を設ける等の工夫が必要である。・異文化、異分野でグローバルに活躍する人材育成のために、英語によるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を伸ばすコースワークを用意する必要がある。・統合物質科学特別講義等によってキャリアパス教育は行われているが、個々の学生と教員との双方向でのキャリアパス支援を強化することが望まれる。・指導教員と副指導教員によるダブルメンター制に加えて、学生と近い世代の教員等が学生と日常的にコミュニケーションを図れるような仕組みがあるとよい。・「統合物質科学」の学理体系を構築するとともに、継続的に優れた人材を輩出する持続可能なプログラムに発展させることを期待する。			